

上野さち子



山口市
(1925～2001)

大正十四年山口市に生まれる。山口県立女子専門学校にて国文学を専攻。俳文学者井本農一の俳諧の講義を受ける。母校に助手として残ったさち子は井本の示唆を受け、俳句の本質に迫る研究に邁進する。また、自己意識を強く持ち、生きる意味を自らに問い続けることにより、優れた俳句作品を残した。実作の俳風は、物に即して感動の世界を描き、雪月花にもっとも定型を生かし得ていて典雅。近世近代を含めた新たな視点で『女性俳句の世界』を刊行。この中で取り上げた下関市豊北町田耕出身の田上菊舎については、ライフワークとなり、のちに『田上菊舎全集 上・下』を刊行。(長戸幸江)

【主な著作】

句集『水の上』(角川書店、平成4年)

評論『女性俳句の世界』(岩波新書、平成元年)

『田上菊舎全集上・下』(和泉書院、平成12年)